

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000259		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム里の家(ひまわり)		
所在地	小樽市桂岡町11-13		
自己評価作成日	平成29年11月30日	評価結果市町村受理日	平成30年2月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業者は地域密着型のサービスの意義を理解し、入居者されている方々が認知に障害があっても適切な介護を受ける事によって穏やかな生活ができる事を目標としています。地域の中で長く生活されて来た方々が、地域と繋がり、それまでの生活と環境を大切にそしてその人らしい穏やかな日常生活を続けられる様支援します。具体的にはそれまでの暮らしで使っていた馴染みの家具や道具に囲まれ、楽しむ事ができる環境作りを行ないます。また外出や地域の方々との交流をおこない、それまで培ってきた関係性を大切に、いごちの良い暮らしができるよう支援します。職員一人ひとりが入居者様と生活を共にしている事を常に意識し、ゆっくりと関わり、落ち着いた環境でコミュニケーションを図るよう努めます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0172000259-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0172000259-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年1月15日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念には地域密着型サービスの意義をふまえたものがある。理念は毎朝の申し送りで唱和している。自己評価は番号順に毎月全職員がレポートを提出し、実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のハーモニカ・フラダンス・日本舞踊のサークルが定期的に訪問している。桂岡小学校との交流がある。避難訓練や災害時訓練はに地域の方も参加。入居者も町内行事に参加して交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りを開催して地域の方と入居者さんの関わりを持ってもらう。桂岡小学校の社会学習の場として活用されている。銭函聾学校の社会学習の受け入れと実践者研修の受け入れを行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者はご家族、市役所、包括、銭函ディサービス、町内会部会長、管理者、計画作成担当者や入居者が参加。里の家の取り組みを伝えハロウィンや餅つきなど地域との交流のきっかけ作りとなっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長が主にかかわり、地域の事業所として小樽市との連携を図るため情報やアドバイスを頂いている。定期的な状況報告等を行なっている。特に福祉課と密に連絡し、入居者の生活支援を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修や自己評価でのレポート提出で身体拘束について理解を深めている。玄関の施錠はやむを得ず施錠しているが、外出したい時はすぐに外出が出来るよう努め、施錠していると感じられないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の研修・自己評価のレポート提出で虐待についても理解を深めている。グレーゾーンの対応は出来るだけ職員同士で注意しあっている。社会で起きた報道からも虐待が起きない様注意を払っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者が在籍しているため制度は日頃から学んでいる。問い合わせがあった時は施設長が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長は見学の段階から出来ることや出来ないことの説明を行い、入居時には重要事項説明書に沿って、説明を行い同意頂いている。改定や解約時にも説明を行い同意頂けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡の際に要望等がないか声をかけさせて頂いている。意見箱を設置し、意見や要望があった場合は全ホームで見直しを行なっている。電話受付窓口は毎月のお便りに記載されている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とは朝の全体申し送りや研修で意見を交換する機会がある。また、昼食は月替わりで全ユニットを回っており、機会作りされている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩室が確保され、ユニットを離れて休憩を取る事が出来る。日頃から定時退社に努めている。毎年花見と忘年会が行なわれている。資格取得に積極的に取り組んでいる。職員の健康診断は年1～2回行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月行なわれている内部研修はテーマに沿って対象の職員が変わり、満遍なく研修が受けられるよう工夫されている。希望する職員は社内その他ホームの見学を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の他のホーム訪問の他、研修生の受け入れで交流する機会が出来ている。毎月全ホームの事故・ヒヤリハット報告に目を通す機会があり向上につながっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報や面談で希望や意向・困っている事・不安な事などを聞き、新しく入居された方が話しやすい環境作りと入居者同士・職員との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の声に耳を傾け、不安や心配な気持ちを汲み取るよう努めている。関係作りに努め、不安などの解消に努めている。入居後も生活歴など、ご本人のお話を聞き、情報の充実に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークでご本人の様子を見させて頂きご本人・ご家族と相談・協力しながら自立支援を行っている。機能訓練や外部の受診にも対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	手伝いや日常の会話などからご本人の喜怒哀楽に共感できるように心掛けている。ご本人の立場になり、笑顔で待つ事と、出来る事・出来なくなった事の見極めをして支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子や希望されている事をご家族に伝え、ご家族にも関わって頂いたり、ケアプランに反映する事もある。ご本人らしい服装はご家族に協力して頂くこともある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別の行事やご本人の希望で外出して、昔住んでいた町で知人を訪れたり、お店の方と住んでいた頃のお話しをされる事もあります。入居まで通っていたスーパーに行かれる方もいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性の良くない入居者さん同士が近くに座り、トラブルに発展しそうな時は、さり気なく一人を別の場所に誘ったり、歌のビデオや運動・アクティビティを通して係わり合いを持って頂いたり場面転換のきっかけ作りをするようにしています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	市内の病院に入院された場合は、機会を見て訪問している。近隣の病院であれば入居者さんと一緒に訪問する事もある。ご家族や病院からの問い合わせも入居時と変わらず対応し、ご家族が来る事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に過ごしたり食事を食べながら話す中で、希望が出る事もあり、共有できるようにしている。困難な方は表情や声のトーン、サイン等で判断したり、本人の気持ちになって判断するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時までの情報や、面会者の情報とキーパーソンにもその都度伺い、新しい情報が得られる事もある。場合によってはご本人からも早い段階で聞き取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議で話し合い、アセスメントを取っている。また、申し送りでもその都度話し合われている。職員同士の情報の共有・連携にも努め、対応方法の検討もされている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議で話し合いが行なわれている。ご家族とも話し合いを行い、ケアプランに反映している。介護計画の更新時だけでなく、変化があった時も話し合い、ご家族とも連携を取りケアプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録は個別に用意されている。職員とのやり取りやその時々様子・出来事等を記入するよう努めている。変化があった時など、個別の記録から振り返りも出来る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	整骨院から機能訓練の訪問診療がある。希望された方には受けて頂いている。買い物や訪問診療以外の受診等外出のニーズにも出来るだけ対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の趣味の会(悠ゆうの会)より日本舞踊やハーモニカ・フラダンスが定期的に訪問して下さっている。聾学校からの研修生や桂岡小学校生の訪問もあり、入居者さんとの交流がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を大切にしているが、多くの入居者さんは訪問診療を希望される。訪問診療以外の受診にも対応しており、内科以外の診療科を受診される方も少なくない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護ひまわりより訪問してもらっており、小さな変化から、受診の相談等まで対応してもらっている。場合によってアドバイスを頂く事もあり、訪問診療を行なっているがた医院と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	すがた医院より紹介があつて入院されるケースが多いが、その場合はすがた医院より医療情報は入院先に提供されている。その他はフェイスシート等情報提供を行っている。退院時期は、ご家族・関係者と施設長が中心になり調整している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けてはすがた医院よりご家族に状況説明があり、今後については三者でご家族・ご本人の気持ちに沿って話し合われる。話し合いの結果はご家族より同意書を頂いている。すがた医院では夜間の相談等も対応頂けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練が行なわれている。緊急時の対応マニュアル・緊急時持ち出しファイルが各ユニットに置かれている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年は災害時に備えた訓練が2回行なわれており、地域の方の協力も得られている。火災訓練も定期的に行なわれており、訓練する職員に偏りが無いよう配慮されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別化を心掛けて対応している。声の大きさや言葉使い・態度・にも気を配り年長者として接している。部屋での対応もプライバシー保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類や食べたい物等、生活の場で選択し自己決定する場面は沢山ある。場面を見過ぎさないようにし、その人に応じて閉じた質問で問い掛けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先・職員優先にならないように対応するよう心掛けている。それぞれのペースに合わせるようにしている。職員が決め付けず、その人らしさを大切にしていけるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の乱れや汚れに気をつけている。職員と一緒に着る服を選ぶ方もいる。季節に応じた服装ができるよう支援している。化粧品の不足がないか気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を入居者さんと話して献立を作ったり、サラダの調味料等を選んでもらっている。片付けや食器拭き等の手伝いもお願いしている。昼食は職員も一緒に食べ、会話の機会作りにもなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分はバイタル表に時系列ですぐに記入しており、目標の水分が取れていない時は、好みの飲み物にしたり支援をしている。野菜・たんぱく質・炭水化物・脂質のバランスや塩分量に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは自分の歯の方や総入れ歯の方、残渣の溜まりやすい方など、気をつけている。入れ歯の方は夜間はポリドントして頂いている。声掛けや支援が難しい方もおられる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	急に排泄の失敗が増え、パットや紙おむつを使用した方が数名いるが、現在はほとんど使われていないか、本人が心配な方は夜のみ薄いパットが使われている。徐々に使用量が増えている方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時は水分とヨーグルトを食べて頂いている。食事は食物繊維が取れるようにし、昼食には果物を付けている。廊下の散歩や運動をして頂いている。水分は好みに応じ、量の確保に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ボイラーの都合もあり、基本的な曜日は決まっているが臨機応変に対応している。お風呂嫌いな方は快く入浴された情報を共有している。入浴中は会話の機会にもなっており、ストレスの発散にもなっている様子。好みの温度にも気を付けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝等はそれぞれの部屋に行ったり、ソファで寝やすいとソファで居眠りされる方もいる。包布やシーツ交換は定期的に行なっている。睡眠パターンに合わせ時間をずらして食事の提供もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は毎年全職員が書き写して覚えていたが、今年には行なっていない。薬情はバイタル表にまとめて綴り、見やすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割は掃除や食事関係等をお願いしている。部屋で紅茶やお菓子を食べてテレビを楽しむ方もいる。外出行事や風船バレー、廊下に写真や川柳・塗り絵を貼っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期は散歩やドライブに出掛る。個別行事では行きたい所に行っている。買い物に個別で出掛けたり、買い物行事に出掛ける事もある。普段の会話の中からニーズを受け止めるよう心掛けています。外出行事は家族の協力もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望とご家族の理解でお金を持たれている。希望に応じて買い物に行き、自分で会計をされる方もおり見守りと支援をしている。所持金額より多く買い物される方は現在の金額を伝えて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてご家族等に電話で話して頂いている。電話中は部屋や事務所で話して頂き、他者が気にならないように配慮している。手紙の希望はなくなっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	蛍光灯は電球色の暖色を使うようにしている。眩し過ぎたり、薄暗くならないよう配慮している。テレビの音量や職員の声も大きくならないよう気を付けている。部屋の温度は職員が部屋に訪問した時に調節させて頂いているが、自分で最大にされる方もおり、難しい面もある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファは9人分あり、自由席になっているが自分の場所を決めている方もいる。廊下側にもソファが一つあり、一人になりたい時に座られている方がいる。食卓テーブルは席が決められている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前、ご家族に使い慣れた家具や持ち物を持って来て頂ける様お話している。配置もご家族と相談させて頂いている。入居後も本人の意向をご家族に話して相談している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者さんそれぞれの出来る事を常に把握し、情報の共有が出来よう職員は心掛けて見守っている。部屋のドアに名前や好きな動物の写真などの目印を付けたり、トイレの表示をしている。		